

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部 創立10周年に寄せて

⑩

住田町上有住の五葉山麓森林公園にある、あすなろ山荘を拠点に行われた「自然を語る夕べ」。平成十一年十月二日、あすなろ山荘での夕食。サンマの丸焼き、サンマのすり身汁、ホタテの丸焼き。

夜はランタンとロウソクの灯りの下、参加者それぞれに五葉山への思いを語り合う。未明には強風で広葉樹の葉が擦れ合う音がする。雨がトタン屋根を打つ。朝方には遠くで小鳥が鳴いている。さわやかな朝であった。みんなで朝食の準備をする。おにぎりを包み

込む海苔のおいが森にとけ込んでいく。コーヒを飲みながら聞こえた不思議な声を忘れぬ。五葉山までいらっしやい。森が私を誘っているような気がした。思えばあれから三年が経つ。住み慣れた八日町の平らなはずの道が坂道に感じられた。心臓病の発症だった。直ちに遠野病院に入院。

「会わせる人には会わせたい方がいい。一週間がヤマだ」と言われたという。ベッドに寝ていて体が浮いて、まるで空を飛んでいる感じた。平成八年の年の瀬も押し迫

り、暮れを迎えようとしていた。

いま、五葉山麓にいたことが不思議なくらいだ。「きょうをおいて五葉山に登る機会はない」。そう思うともう迷いはなかった。

一生の宝〜大病後の初登山〜

住田町上有住 吉田 和子

「生きる自信にしたい」という心の内から湧き上がる思い。五葉山麓の森の力が私の背中を押し、手を引いてくれている。「挑戦」の二文字が意を強くさせる。六十三歳にして初めての五葉山登山である。

急がなくていいから。黒岩コースを案内していただいている千葉修悦さま。

「あすなろ山荘」前で記念写真。このとき「五葉山登山」の覚悟を決めていた（前列左が筆者）



「命の重き安らぎ七十四歳の健康ここに見ゆ」と

【執筆専らプロフィール】住田町上有住在住、七十三歳。平成八年十二月、重い心臓病を発症し、生命の危機に直面。十一年十月二日の「自然を語る夕べ」が転機となった。十八年に行われた「北上夜曲歌唱コンクール全国大会」で特別賞の「せせらぎ賞」を受賞。体いっぱいに生命感溢れる歌を熱唱した。

「生きる自信にしたい」という心の内から湧き上がる思い。五葉山麓の森の力が私の背中を押し、手を引いてくれている。「挑戦」の二文字が意を強くさせる。六十三歳にして初めての五葉山登山である。

「ゆるゆるといふよ。急がなくていいから。黒岩コースを案内していただいている千葉修悦さま。